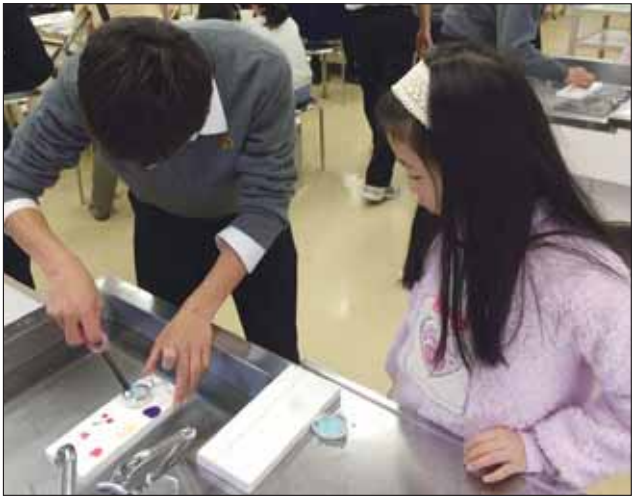

子供科学体験を
泉北高生が指導

12月23日、泉北高校が栂文化会館で子供科学フェスティバルを開催した。昨年に続いて2回目。前回好評だったので、今回は時間を拡大して、参加者がより多くのブースを回れるように配慮した。

同校が文部科学省からSSH（スーパーサイエンスハイスクール）校に指定されたことを受け、地域の科学教育の拠点となるべく企画。同校の1年生が選択科目の授業の中で教員の指導を受けながら自分達で各ブースの出し物を決めた。ポリマー、カメラ、骨、月球儀、気圧、葉脈など、子供が興味を持ちそうな題材を選び、12月に入ってから準備にとりかかった。小学生にも分かるように説明するため、手順や理論の解説方法も考えた。

小学3年生以上が対象で、南区の各小学校に呼びかけたところ、当日は来場者数200人を超える大盛況ぶり。子供達が好きなブースに並び、思い思いに体験していった。高校生は事前の準備通りにテキパキと対応しながら熱心に指導。子供達の反応に目を細める良い先生ぶりを発揮していた。

同校の地学担当で今回指導した和田充弘さんは「小学生対象で企画し、実際に指導するのは生徒達にとっても非常にいい経験です。今回は同じSSH指定校の住吉高校と大阪市立東高校が各1ブース参加してくれ、さらに活気がありました。来年も地元での科学教育活動に力を入れていきます」と。

〔杉本〕